

## ディレクトフォース

ディレクトフォースでは、新日鐵住金の方も交え「社会人になってから役に立つ、学生時代の経験」についてディスカッションしたことが最も印象に残っています。

前半には四つ質問をさせていただきました。まずは、「どうすれば部活動と勉強を両立させることができるのか」について伺いました。新日鐵住金の方は「部活動と勉強を両立させる、という意味を持って生活することが大切」とおっしゃいました。この意思を強く持つことで、生活の中で体力をつけたり、時間の無駄を切り捨てたりすることができるということでした。次に、「高校までに身につけられること」について伺いました。それは「情報の共有やアドバイスをみんなですること」だそうです。会社の仕事はチームプレーで、情報の共有が大切になるそうです。「企業は世代が違うだけでその部分は変わらないので、学校の部活動や行事で身につけてほしい」とおっしゃっていました。その次に、「グローバルなニーズをすり合わせていくにはどうしたらよいか」について伺いました。それは「現地の風習や文化を知って行動すること」と「大切なものはどんな場面でも変えないこと」だそうです。この二つを組み合わせることが大事だとおっしゃっていました。最後に「海外での活動に英語力はどのくらい必要か」について伺いました。お答えは「英語ができることに超したことはないが、交渉のときには通訳の方がつく」とのことでした。「ビジネスに応じた英語力が必要」ともおっしゃっていました。

後半はこれらの質問を踏まえて班の意見をまとめていきました。私達の班の意見は「社会人になってから役に立つ、学生時代の経験は部活動である。」というものでした。部活動では部員全員が一つの目標に向かって努力を続けます。団体競技でも個人競技でも、目標に向かっていく姿勢は同じです。この目標に向かっていく姿勢が、社会人になってからも活かされると考えました。また会社では、目標に向かってそれぞれの部署が協力しています。これは部活動でも同じことが言え、違う部活動であって

も練習方法の共有など、連携していくことが大切だと考えました。

このディレクトフォースを通じて、自分は今、何をすべきかを学ぶことができました。すべきことを一つ一つこなし、新日鐵住金の方々のような社会の役に立てる人になりたいです。

## 企業大学訪問

私達の班は「有限責任監査法人トーマツ」を企業訪問させていただきました。この会社は、企業の決算書等の財政書類を監査し、正しく作られていることを証明する会社です。私達は主に公認会計士の仕事について学ばせていただきました。

まず、公認会計士とはどのようなものなのかを教えてくださいました。そもそも「会計」とは、主に株式会社の活動によるお金の動きを記録し管理することです。株式会社には、会社の利益や損失、またその理由について株主に説明する責任があります。そのため、株式会社は一定期間の会社の活動を数字で表します。それが決算書です。しかし、第三者の目が入っていない決算書では株主の信頼を得ることができません。そこで決算書を監査し、正しい決算書であることを証明するのが公認会計士です。その後、私達の質問に教えてくださいました。一部のみ記載させていただきます。監査の規模は一部上場企業だと十数人、メガバンクにもなると百人以上の公認会計士の方が一年かけて調べるそうです。高校生のうちに身につけておくべき力はコミュニケーション能力で、その中でも相手の企業にとってマイナスになることもしっかりとと言えることが大切なのだそうです。仕事のやりがいや提言したことを相手が受け入れてくれて、相手から感謝されることで、つらいことは言いにくいことも言わなくてはいけないことだそうです。学生時代やそれ以前の経験で、今、役に立っていることとしては、学校で

の先輩、後輩がいる環境や、バイトをしていたときに電話の応対を経験することができたこと、小さいときに地域の老人会のような所に連れて行かれたことで、相手がずっと年上の方でも臆せず話すことができる、ということも挙げていただきました。

最後に、オフィスを見学させていただきました。トーマツには決められたデスクがなく、入社した順に自由に席を選んで仕事をするそうです。また、訪問させていただいた日は企業の決算報告等の時期ではなかったため、多くの社員、職員の方がオフィスにいらっしゃいましたが、決算報告の時期になると企業のほうに行ってしまうため、オフィスにはほとんど誰もいなくなってしまうそうです。さらに、会計監査六法も見せていただきました。とても厚く、覚えるのが大変そうでした。毎年少しずつ内容が変わるため、毎年買い替えなくてはならないこと、会計監査六法やノートパソコンを持ち歩くため、公認会計士の方には大きなリュックを使っている方が多い、ということも教えていただきました。

今回企業訪問をさせていただくまで、私は公認会計士の方は数字とばかり向き合っていると思っていました。しかし実際は、高校生のうちに身につけておくべき力としてコミュニケーション能力を挙げられるなど、数字とばかり向き合っているはいけないということがわかりました。また、説明していただいた方々の柔らかな物腰の中にも確かな自信を感じ、「仕事ができる人」は自分の仕事に自信や誇りを持っていることもわかりました。この企業訪問を通じて、私も将来は自分の仕事に自信や誇りを持てる人になりたいと思いました。そのために今できることを一つ一つこなしていきたいと思います。

## OBOG による懇談会

仙台二高 OB・OG の東京大学の学生・大学院生の方々による懇談会では、三人の先輩から多くのことを学ばせていただきました。その中でも、水泳部出身の OB の方のお話が心に残っています。その OB の方は工学部社会基盤学科の方でした。文系の私ですが、水泳部出身の方のお話に興味があり、お話を伺いに行きました。

まず、なぜ東京大学に入学したのかを教えてくださいました。この理由に私は驚きました。その理由とは「何でも一番になりたかったから」というものでした。これをモチベーションに本当に合格してしまう姿はカッコいいと思いました。また、高校時代の一日のスケジュールについても教えてくださいました。ここでも私は驚かされました。放課後二時間程、ほぼ毎日友人と遊んでいたということです。私は東京大学に入学するような人は勉強ばかりしていると思っていました。しかし、放課後に遊ぶために、朝は七時半から教室で自習をし、水泳の練習から帰ってきてからも勉強していたこともあわせて教えてください、納得しました。大切なのは、自分が決めたことを実行することができる意思の強さだということがわかりました。

最後に、問題解決思考について教えてくださいました。問題解決思考とは「何を解決するためにそれを行うのか？そもそも何が課題なのか？」を考えることです。例えばこの OB の方は「何の参考書がおすすめですか？」という抽象的な質問はあまり良くないとおっしゃっていました。解決すべき課題を考えずに相手に丸投げしてしまっているからです。私はこの問題解決思考は勉強だけではなく、部活動にも活かされると思います。ただ漠然と練習をこなすのではなく、「自分の課題は何で、何をすれば解決することができる」ということを考えながら練習することで、練習がより意義のあるものになると思います。

この懇談会を通じて、一日のスケジュールの組み方や学習方法、勉強や部活動に取り組む姿勢などを見直し、良いきっかけになりました。今後はOB・OGの方々に教えていただいたことを活かし、勉強も部活動も自分の目標に向かって努力したいと思います。